

PROLOGUE

木更津市立木更津第二中学校
〒292-0801 千葉県木更津市請西941番地
☎0438(36)2280 FAX0438(36)2233



木二中 学校だより No.30 令和6年12月11日

E-mail:kisarazu2-j@kisarazu.ed.jp

校長 山元 竜二

<https://www.fureai-cloud.jp/kisa-kisarazu2-j>

「何度でもいい 残酷な人生よ もう一度」

中学生の皆さんには難しいかなあ…。もしかしたらお家の人で「よく知っている」という人がいるかもしれませんが。上記表題は、某ドラマで人生に虚無感を抱いていた主人公が最愛の人との出会いを通じて自己の人生に生きがいを見い出していくという過程の中で最愛の人に向けて発した言葉です。

どういう意味かという、「もう一度生まれ変わってもいいと思える人生を生きよ」。実はこの言葉、かの有名な哲学者、フリードリヒ・ヴィルヘルム・ニーチェ著『ツァラトゥストラはかく語りき』（「ツァラトゥストラはこう語った」）の中に出てくる一節。

Friedrich Wilhelm Nietzsche【フリードリヒ・ヴィルヘルム・ニーチェ】

ニーチェは19世紀のドイツの哲学者です。既存の価値観を批判し、「神は死んだ」という言葉はあまりにも有名です。実存主義の先駆者であり、超人思想や永遠回帰など、独自の概念で現代思想に大きな影響を与えました。主著に『ツァラトゥストラはかく語りき』があります。（Google 辞書より）

「ツァラトゥストラはかく語りき」を本当に簡単に、中学生の皆さんにもわかりやすく伝えると、ニーチェの分身とも言えるツァラトゥストラが「神は死んだ」と人々に伝えていこうとするストーリーなのですが、これがまた超訳本を1回読んだくらいではまったく意味がわからないくらい難解中の難解。まあ、哲学書というものはそんなもん…とあきらめて何回も何回も読む覚悟をもって読み込むと「おや？」っていう気づきがあったりするものです。

◇ニーチェが言う「神は死んだ」の真意とは？

◇19世紀のヨーロッパを支配したニヒリズムの背景は？

ニヒリズム(虚無主義=この世には信じるべき価値や真理はない、むなしい世界であるという考え方)

◇理性や宗教(キリスト教)に対する信頼が揺らいでしまった(絶望)先に人間が行動の拠り所とするものとは何か？

以上3点をポイントに読み進めていくと中学生の皆さんでも「なるほどねえ～」と理解できるかもしれません…。いや、どうかな、やっぱり難しいかな…。(そもそも中学生がニーチェを読むわけないか…。)

ニーチェに関する書籍を読む上で、いくつかキーワードがあります。先に記したニーチェの名言「神は死んだ」(神が人々を救うわけではない)や「ニヒリズム」(頑張っても無駄な社会)もそうですが、その他にも

◇「永劫(えいごう)回帰」=【宇宙も世界も人間も永遠に続くサイクルを繰り返す】

◇「末人」=【「頑張らなくてもいい」世の中で、楽して生きていく事ばかり考える人間】

◇「超人」=【ニヒリズムを克服して末人を脱する人。自分自身を超えていく人のこと。】

等の言葉をキーワードにすると理解が深まるかもしれません。

クリスマスを楽しんだその一週間後には初詣に出かける無宗教・無信仰も甚だしい私に宗教的かつ哲学的なことを語る資格など毛頭ありませんが、ニーチェは、

◇文明が発達し、人々の生活水準は向上し、物質的・精神的に豊かになったが人間の真理にたどり着いてはいないこと。

◇長く信仰の対象であったキリスト教(当時)ですら新約聖書に「貧しい人々は、幸いである」という記述があるように、苦しく辛いはずの「貧困」がキリスト教では肯定されてしまっていること。

でニヒリズムが生じ、人々は何を信じていいかもわからなくなってしまい、唯一それまで心の拠り所であったキリスト教ですら信じられなくなってしまった、ついには人々は人生に絶望してしまった、と語っています。これは、ニーチェの思想の原点であると言っても過言ではありません。だからこそニーチェは、「自分自身を信じろ」と主張したのではないのでしょうか。(私見)

文明の発展により世界の情報を瞬時に手に入れることのできるダイバーシティな現代にも当てはまると思いませんか？(これも私見)

ニーチェの哲学的な名言・格言は、仕事・人間関係・恋愛といったジャンル毎に整理され、紹介されている書籍やサイトもあるほど。特に中学3年生の皆さん、受験勉強の合間の息抜きに目にしてみてはいかがでしょうか？高校・大学卒業後の進路について考えるよい機会にもなるかと思います。